

財政収支に関する中期試算

財政局財政課

「財政収支に関する中期試算」の趣旨・目的

- 「財政収支に関する中期試算」は、毎年度の予算編成結果を踏まえ、向こう5年の中期的な歳入歳出を見積もり、後年度の財政収支見込（一般財源の収支見込）の推移を試算し、その傾向を把握するもの。
- この試算結果は、今後の予算編成や持続可能で安定的な財政運営に向けて、各年度の要調整額（収支不足額）に対し、中期的な視点から、歳入歳出両面でどのように対応していくか、年度間の財源調整をどのように行っていくか、さらには事業実施の進捗調整・平準化や財政負担の平準化などを検討する際の基礎的な資料となるもの。
- なお、この試算は、毎年度の予算編成結果を踏まえて作成しているものであるが、今後の国の施策動向や社会経済情勢の影響など不確定要素が多分にあり、精緻化には自ずと限界があるため、将来に向かって相当の幅を持って見る必要がある。

中期試算の前提条件

○ 当初予算編成に近い条件を設定し、推計期間を令和8年度から令和12年度の5年として、試算を実施。

歳入	市 税 譲 与 税 ・ 交 付 金	○ 国の地方税収の試算などを参考に推計。また、令和7年度の税制改正大綱の内容を反映。 ○ 給与所得の伸び率は、内閣府「中長期の経済財政に関する試算」(R7.1)を勘案。
	地 方 交 付 税 臨 時 財 政 対 策 債	○ 市税、扶助費及び公債費の更新を反映。 ○ 臨時財政対策債は、令和7年度地方財政対策で新規発行ゼロになったことを踏まえ横置き。
	国 庫 ・ 県 支 出 金	○ 事業費に連動して推計。
	市 債	○ 事業費に連動して推計。 ○ 収支不足対応分(行政改革推進債、調整債)の発行を見込む。
	そ の 他	○ 事業費に連動して推計。
歳出	扶 助 費	○ 過去の実績を踏まえて推計。
	人 件 費	○ 給与改定は、内閣府「中長期の経済財政に関する試算」(R7.1)を勘案。
	公 債 費	○ 過去の市債発行実績等に基づき、元利償還額及び利払い額等を推計。 ○ 利率は、令和7年度当初予算で使用した利率2.2%及び2.5%と設定。
	普 通 建 設 事 業 費 そ の 他	○ 財政収支への影響が大きいと考えられる政策的事業は、個別に積み上げて推計。 ○ それ以外は、令和7年度当初予算額等と同額を見込む。 ○ 物価高の影響は、内閣府「中長期の経済財政に関する試算」(R7.1)を勘案。

令和7年度当初予算編成を踏まえた中期試算結果

○ 財政調整基金の令和7年度末残高(令和7年度当初予算編成後)は、約167億円の見込み。

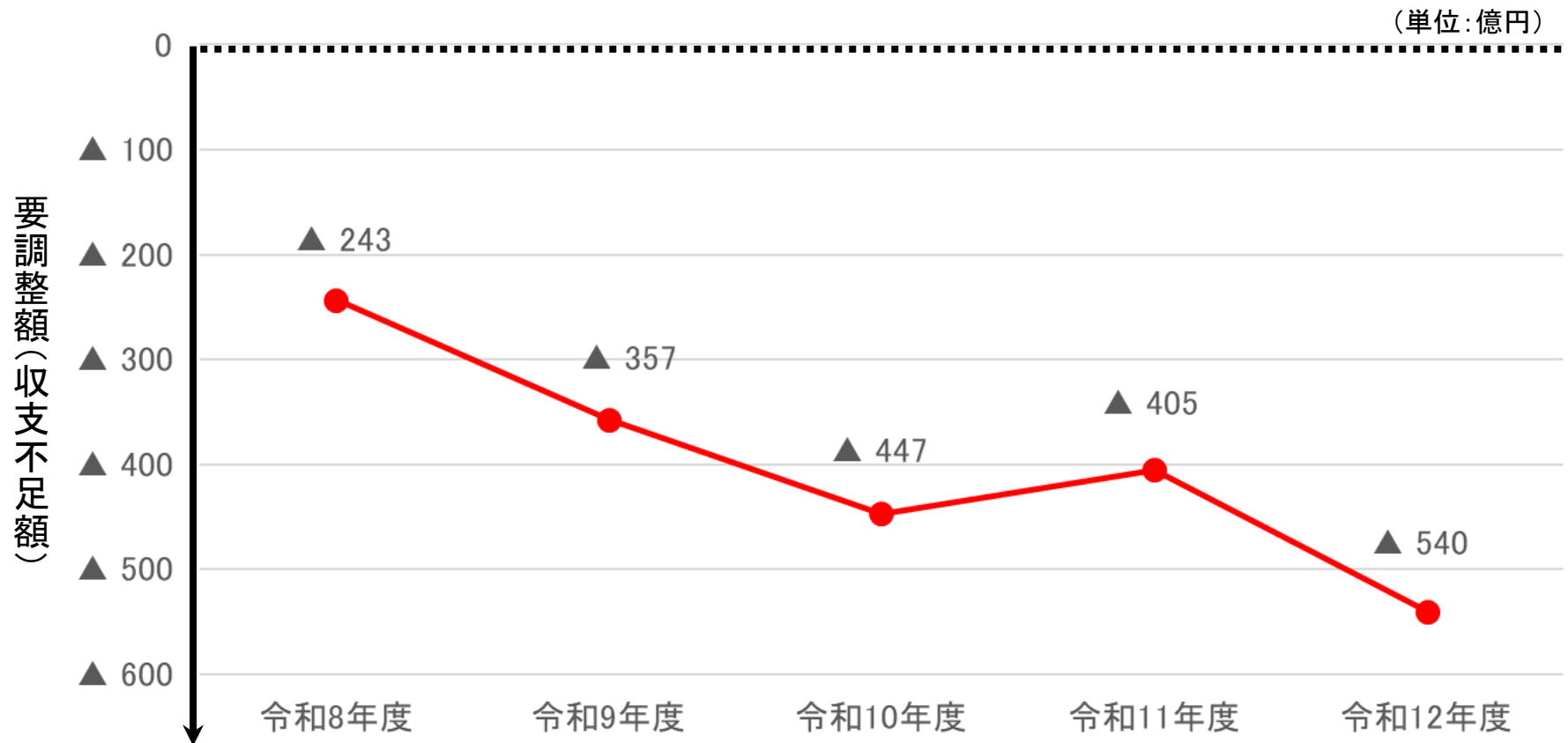
区 分		令和7年度 当初予算	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
歳 入	市税	3,038	3,093	3,143	3,179	3,213	3,205
	譲与税・交付金	538	571	559	563	566	553
	地方交付税	89	97	96	97	100	149
	国庫・県支出金	1,901	1,878	1,932	1,985	2,051	2,146
	市債	655	662	645	676	644	694
	臨時財政対策債	0	0	0	0	0	0
	普通建設事業分	585	592	625	656	624	674
	収支不足対応分	70	70	20	20	20	20
	財政調整基金	142	0	0	0	0	0
	その他	671	729	709	710	696	715
歳入合計(A)		7,034	7,030	7,084	7,210	7,270	7,462
歳 出	義務的経費	3,859	4,036	4,128	4,280	4,348	4,518
	扶助費	1,855	1,934	2,010	2,085	2,161	2,237
	人件費	1,447	1,520	1,503	1,561	1,543	1,605
	公債費	557	582	616	633	645	676
	普通建設事業費	918	934	981	995	974	1,068
	その他	2,257	2,303	2,332	2,382	2,353	2,416
	歳出合計(B)	7,034	7,273	7,441	7,657	7,675	8,002
要調整額(収支不足額)(A-B)		0	▲243	▲357	▲447	▲405	▲540

※ 計数はそれぞれ四捨五入しているため、合計とは一致しない場合がある。

財政収支の見通し

○ 推計期間 令和8年度～令和12年度

○ 推計ベース 令和7年度当初予算編成結果を基本として推計

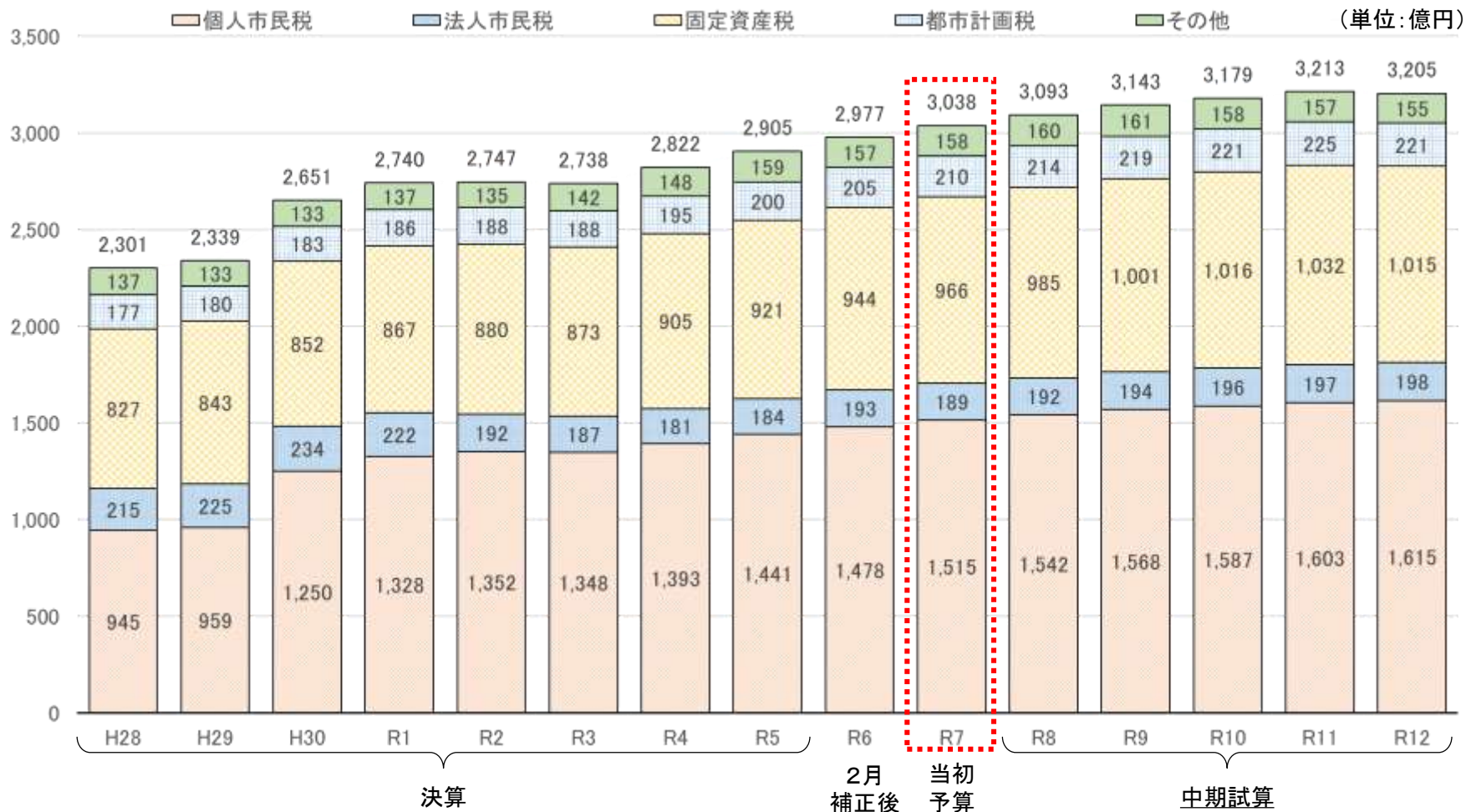


※ 財政収支の見通しは、一般財源ベース。

※ 内閣府「中長期の経済財政に関する試算」や歳入・歳出の状況など、現時点で見込むことができる条件を前提に推計。
この試算は、不確定要素を多く含んでおり、将来に向かって相当の幅をもってみる必要がある。

【参考①】 市税収入の推移と今後の見通し

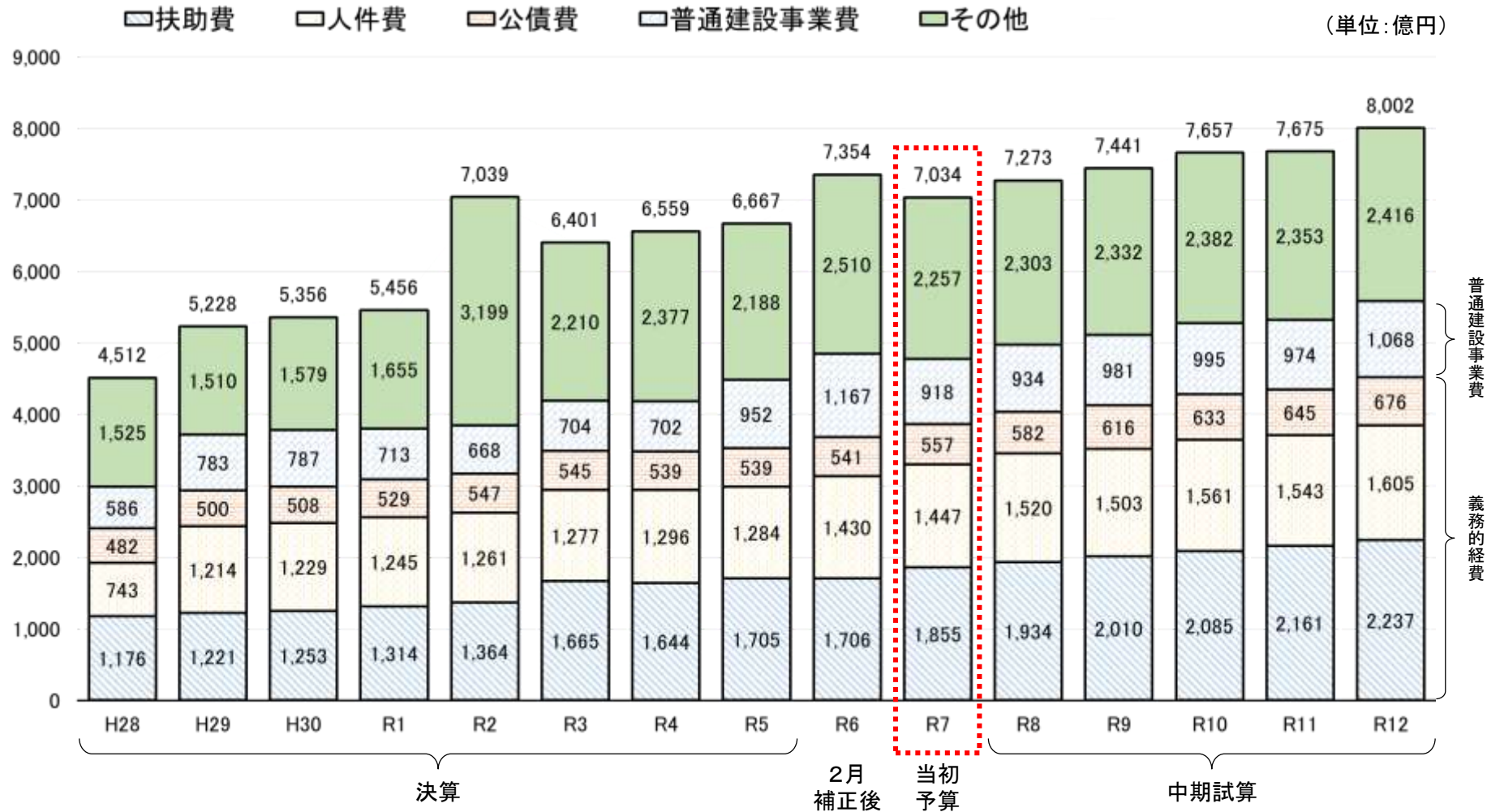
- 市税収入は、個人市民税・固定資産税が全体の8割超を占め、景気変動の影響を受けにくい構造。安定的である反面、企業収益の伸び等は市税収入には直結しにくい。
- 今後、給与所得の伸びが期待される一方、人口増加が続いても生産年齢人口は減少傾向。



※ 中長期的な傾向を把握するため、R6予算の数値は、定額減税の影響がない場合の数値に置き換えている。

【参考②】 歳出の推移と今後の見通し

- 扶助費は着実に増加。人件費は賃上げの影響により増加傾向。
- 普通建設事業費は、引き続き高水準で推移。



○ 地方税財政制度

毎年度の地方財政対策、地方税制改正の動向

○ 市税等収入

経済情勢の変動による個人市民税を始めとする市税等収入の動向
市税等収入の動向を踏まえた普通交付税算定の動向

○ 義務的経費等

〔人件費〕 民間の賃上げ状況を踏まえた給与改定等への対応
〔扶助費〕 人口・高齢者数の増加に伴う子ども・子育て施策と社会保障施策への対応
〔公債費〕 経済情勢の変動による金利の動向
〔その他〕 サービス・施設管理等の委託料の増加への対応

○ 投資的経費等

未来に向けたまちづくり、都市インフラ・公共施設の維持管理・老朽化対策
資材価格等の高騰による事業費変動への対応

○ 持続可能で規律ある財政運営

歳出全体の規模の平準化、持続可能な事業内容への転換